

令和2年度 鳥羽市防災訓練 「風水害等避難所運営訓練」 「避難行動シミュレーション」

今年度の市防災訓練は、新型コロナウイルス感染症による影響を考慮して、大勢のかたが密集するおそれのある津波避難訓練は実施せず、「風水害等避難所運営訓練」と「避難行動シミュレーション」を行います。

①風水害等避難所運営訓練

市指定風水害等避難所のうち、施設の規模に応じた「モデル避難所」を設定し、コロナ禍における各避難所の「開設」「受付」「発熱者対応」について2か所同時に訓練します。※自主防災組織だけを対象とした訓練のため、一般のかたの参加はありません。

とき 11月1日(日) 午前9時～10時10分
(予備日：11月8日(日))

ところ 鳥羽市民体育館
鳥羽市役所西庁舎 (旧鳥羽市民文化会館)

②避難行動シミュレーション ～とるべき防災行動をイメージする～

台風接近時や大雨などの風水害時を想定して、ご自身でとるべき防災行動などを確認・整理していく訓練を実施します。

みなさんが整理した内容について、いくつかの質問に回答し提出していただくと、抽選で200人のかたに非常用持ち出し袋に追加しておきたい防災グッズをプレゼントします。みなさん、ぜひ参加してください。

応募方法など、くわしくは広報とば11月号にてお知らせします。

「ニイマル・ニイマル・サンマル」。

この言葉は、「2020年までに指導的地位に女性が占める割合が少なくとも30%程度」という意味の平成15年(2003年)に政府が掲げた目標です。今年、目標年次を迎えましたが、達成は絶望的な状況です。働く女性が増えているのに、管理職に占める女性の割合が思うように増えない理由に、女性自身が「管理職になりたくない」「昇進・昇格を拒否する」といった声がよく聞かれます。

なぜ、管理職登用に対する考え方について、男女間で差が生まれるのでしょうか。

これには、日本では昔から、重要な仕事は男性に割り振られる傾向が強かったことや、女性を対象とした管理職教育の機会が少なかったこと、家事や子育て、介護などにおける男女共同参画が進まず、管理職に

差し掛かる年代の女性たちは、それらを理由に、休職・退職を余儀なくされてきたことなどが理由に挙げられます。

そこで、政府は、女性活躍の推進やダイバーシティ経営の推進に取り組み中で、男性の家事育児への参画推進や女性リーダー人材育成の取り組みにも力を入れて推進しています。

今年の5月11日、日本銀行138年の歴史の中で初となる女性理事が誕生しました。このことは、日本銀行がこれからの日本経済の未来に多様性を重視していることの表れともれます。

「202030」のその先に、人口減少・少子高齢化が進む現代の日本社会において、女性をはじめとする多様な人材が、その能力を最大限に発揮し、未来を担っていくことが求められています。

総務課防災危機管理室



25

1118

一人一人が備えてこい！
防災力UP！鳥羽

vol.88



イコール
パートナー
シップ

Vol.139



202030の
その先に

市民課人権・市民交流係

☎ 25 1126